

2020東京オリンピックに向けての 海上運営メンバー育成計画



TOKYO ● 2020



第3版

2014,09,05

JSAFレース委員会、オリンピック小委員会

はじめに

オリンピックでは参加艇数が少なく、選手のレベルも高いため、運営自体は難しくないが、メディアからの時間指定、選手、コーチが人生をかけて向かってくることに対し完璧なレースを行うプレッシャーは凄まじい。

オリンピックを運営するセクションは様々ある。

ジュリー・コミッティはインター・ナショナル・ジュリーが編成されるため、日本人の出番は多く無いだろう。

メジャーメント・コミッティもISAFから各クラスのチーフ・メジャラが派遣されるため、同じく日本人の出番は多く無いだろう。

しかし、レース・マネジメント・コミッティは異なる。

ISAF から レース・オフィサーが派遣されるが、全ての運営を行うわけではなく、1海面50人、5海面で250人にものぼるメンバーの大半は、地元の日本人スタッフにより編成され、日本人スタッフにより主体的にレース運営を行わなければならない。

オリンピックの運営に失敗は許されない。

2020東京オリンピックを成功させるためには、優秀な運営チームを編成する事が最重要の課題となる。

そのためには、計画的な競技役員育成と強固なチームづくりが必要である。

ISAF Race Management Sub-Committee Nino Shmueli のJSAFレース委員会への助言



海上運営メンバーに要求されるスキル等

- ISAFからの派遣オフィサーに対応する**コアメンバーを15名程度育成**する事が必要。(レース・マネジメントスキル、英語でのコミュニケーション能力が必要、ex IRO資格)
- **海上運営スタッフ全員が英語を話せる必要は無い。**
通常のチーム内コミュニケーションは日本語であれば良い。
- コアメンバーは全体を網羅したスキルが必要だが、**要求されるスキルはポジションにより異なる。**
メンバー全員が全体を網羅する知識が必要なわけではない。
- マークレイヤー、ドライバーは、そのポジションに必要な知識レベルで対応可能である。
- **海上運営スタッフ全員が若者である必要は無い。**



海上運営メンバーの育成について ①

- 2018年のテスト・イベントを視野に入れた、**6年間の海上運営メンバーの正しい方向での育成計画を策定する事。**
- 育成計画の中に、レース・マネジメント・セミナーと共に継続的な海上運営トレーニングを含める事。
- セミナのコンテンツは、レース・オフィサー(コアメンバー) デュピティー(レース・オフィサー補佐)、マーク・レイヤー等ポジションに対応して細分化する事。
- **2016年、2017年、2019年に ISAF Race Management Clinic、2018年に ISAF Race Management Seminar 開催を計画する事。**
- Clinic、Seminarは大会とジョイントして大会前に開催し、Clinic、Seminarの後に大会運営に参加する、海上トレーニングをカリキュラムに織り込む事。

海上運営メンバーの育成について ②

- 複数種目を複数海面で行う国内大会に、ISAFからスーパー・バイザーを招聘し、運営状況を確認・指導してもらう事も有効。
- **大会運営への参画による海上トレーニングは最も重要。**
第1に各水域でトレーニングを積み、次に全日本レベル大会でのトレーニング、その後、インターナショナルレベルと継続的にトレーニングを積むことが重要。
- コアメンバーを今夏開催のレーザー4.7ワールド、来年開催の420ワールド運営に派遣するとともに、2017年以降もISAF大会に派遣して、ISAFスタンダードを習得させる事。
- 東京で470ワールドが開催できれば、運営メンバーとして参加して、知識を高める事が必要。
河野JSAF会長も470ワールド東京招致に前向きだが、これは日本のレース・マネジメントチーム育成にも有効。

海上運営チーム編成について

- 第1にこの1年間の間に、コアとなる15名のレース・オフィサーを指名する事。これには各水域での状況を十分調査した上、優秀な人材を見極める事。
- 各海面のマーク・レイヤーのチーフ計5人と、2人又は3人の補欠要員を2017年までに選定する事。
- 1つの案だが、5海面のレース運営を、日本の水域単位の運営チーム(例：関東水域、中部水域)に担当させる方法もある。
この方法の良いところは、チームワークが確保される事と、各水域でのレース運営がそのままトレーニングに繋がる点。
リオ・デジャネイロオリンピック運営チーム編成はこのフレームで進めている。

海上運営メンバー育成に向けての具体的な計画



2014年度(2014年4月-2015年3月)実施計画

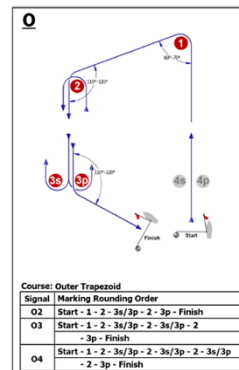
- 2020年に向けての全体・個別計画作成
- 国内大会へのISAFスタンダード導入に向けての調整
- 海上運営コアメンバー候補の検討
- 海上運営チームのフレーム検討
- JSAFレース・マネジメント・ 세미나
- 海外ISAF大会への運営メンバー/視察員派遣
- 実施事項の評価と計画修正

国内開催大会へのISAFスタンダード導入 1

国内開催大会運営をオリンピック運営トレーニングと直結させるべく、レース・フレームにISAFスタンダードを導入

〈導入するフレーム〉

- ① トラペゾイド・コース
- ② スラローム・コース(ウィンドサーフィン)
- ③ ゲート・マーク
- ④ メダル・レース





公益財団法人
日本セーリング連盟

国内開催大会へのISAFスタンダード導入 2

〈対象大会と導入するフレーム〉

- ナショナルチーム選考レース
⇒ 2013年大会より全スペック導入済
- 470級全日本選手権大会 ①. ③. ④
⇒ 2014年大会より全スペック導入決定
- レーザー、レーザーラジアル級全日本選手権大会 ①. ③. ④
⇒ トラペゾイド・コースは既に導入済
2014年大会よりゲート・マーク導入決定
2015年大会よりメダル・レースを導入調整
- 420級全日本選手権大会 ①. ③
⇒ 既に導入済



公益財団法人
日本セーリング連盟

国内開催大会へのISAFスタンダード導入 3

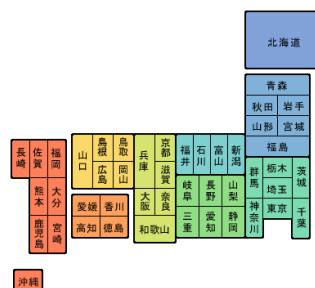
- 国民体育大会：2海面5艇種 ①. ②. ③
⇒ 2014年大会よりトラペゾイド・コースのみ導入決定
2015年大会よりスラローム・コース、ゲート・マークを導入調整
- 国民体育大会リハ大会：2海面6艇種 ①. ②. ③
⇒ 2014年大会よりトラペゾイド・コース、スラローム・コース
ゲート・マークの導入決定
- 全日本学生ヨット選手権大会 ①. ③
⇒ 2015年大会よりトラペゾイド・コース、ゲート・マークを導入調整
- 全日本学生ヨット個人選手権大会 ①. ③
⇒ 2015年大会よりトラペゾイド・コース、ゲート・マークを導入調整
- 全国高校総合体育大会ヨット競技 ①. ③
⇒ 2015年大会よりトラペゾイド・コース、ゲート・マークの導入決定

国内開催大会へのISAFスタンダード導入 3

その他のクラスの全日本選手権大会については、JSAFレース委員会と各クラス協会と協業で、全日本選手権大会の地方予選については、JSAFレース委員会水域委員が主体となって、ISAFスタンダードの導入を調整していく。

〈 JSAFにおける地方水域のフレーム〉

- ・北海道水域 1道
- ・東北水域 6県
- ・関東水域 1都、9県
- ・中部水域 4県
- ・近畿北陸水域 1府、4県
- ・関西水域 1府、3県
- ・中国水域 5県
- ・四国水域 4県
- ・九州水域 8県



海上運営コアメンバー候補検討 1

〈 要件〉

- ・ 十分なレース・マネジメント・スキルを保有している
⇒ IRO 試験合格者、又はNRO資格保有者。
- ・ 十分な英語でのコミュニケーション・スキルを保有している
⇒ 例え現時点で十分なスキルがなくても、今からスキル向上に向けて努力する意思がある場合は、考慮する。
- ・ 各水域でレース・マネジメントの責任者として十分活動している
⇒ レース・マネージメント・チームを率いて行けるか、確認する。
- ・ 活動している水域、所属団体より推薦を得ている

JSAFレース・マネジメント・セミナー 1

〈レース・オフィサー認定講習会〉

全9水域でARO認定講習会を計画

- 北海道水域 2014年11月計画 (北海道)
- 東北水域 2015年01月計画 (岩手)
- 関東水域 2014年06月実施 (茨城)
- 実施時期調整中 (神奈川)
- 中部水域 2015年02月計画 (愛知)
- 近畿北陸水域 2014年04月実施 (滋賀)
- 実施時期調整中 (兵庫)
- 中国水域 2015年02月又は03月計画 (広島)
- 四国水域 2014年12月計画 (香川)
- 2015年01月 (愛媛)
- 九州水域 2014年06月実施 (福岡)

2015年01月に東京にてNRO認定講習会を計画

JSAFレース・マネジメント・セミナー 2

〈選手向けレース・マネジメントセミナー〉

09月実施の全日本学生ヨット個人選手権大会と併催

⇒ 大学生を中心に150名前後が参加見込み

〈ポジション別セミナーコンテンツの開発〉

デュピティー・レース・オフィサー用、マークレイヤー用の2種類のコンテンツの開発を計画

⇒ 2015年04月から使用できる様、レース・マネジメント小委員会、オリンピック小委員会が協業で検討

〈ISAF Race Management Manual

ISAF Race Management Policies 和訳版の完成〉

現在途上の翻訳作業の促進

章単位での分割公開も視野に入れた計画を別途立

JSAFレース・マネジメント・セミナー 3

Ninoの更なるアドバイス (2014年8月17日 於 グディニア)

- **誰がセミナー講師を務めるのか？**

⇒ セミナー講師は、十分なレース・マネジメントのスキルがあり
ISAFスタンダードを十分理解している事

- **セミナーの教材は何を使用するのか？**

⇒ 全ての教材は、ISAFの教材 (ISAF Race Management Manual/ ISAF Race Management Policies をベースとした日本語版である事

海外ISAF大会への運営メンバー/視察員派遣

〈対象大会と派遣メンバー〉

オープン 420 級、470級 ジュニアヨーロッパ選手権大会
: 2014年08月 ポーランド グディニア

- ボランティア運営スタッフ派遣: 岡田 彰

アジア大会: 2014年09月 韓国 仁川

- ボランティア運営スタッフ派遣: 磯部 君江
- 視察員派遣: 津野 洋

※ ISAF 派遣 IROとして岡田が参加

ISAF ワールドカップ: 2014年10月 中国 青島

- 視察員1名の派遣を検討

*** 2015年リオ・デジャネイロでのプレ・オリンピックに
5名のボランティア運営スタッフ(コア・メンバーから選抜)を
派遣できるための、JSAFへ予算申請を実施。**

実施事項の評価と計画修正

活動計画と実績を定期的にレビュー、**本年の活動を修正していくとともに、次年度の計画に反映していく。**

レビューの内容はレース委員会内部で情報共有化するだけでなく、他委員会、選手にまでHP等を活用し展開、**活動の常時見える化を推進していく。**

〈2014年度の定期会議〉

- レース委員会オリンピック小委員会会議
 - 2014年10月13日 長崎（国民体育大会期間中に実施）
 - 2014年11月29日 東京（レース委員会全体会議前に実施）
 - 2015年03月07日 東京（レース委員会全体会議前に実施）
- ※ 必要に応じてWEBミーティングを計画する
- レース委員会全体会議
 - 2014年11月29日.30日 東京
 - 2015年03月07日.08日 東京

2015年以降の詳細は、
次ページ以降の大項目を織り込み、
前年度末までに詳細計画を策定し、
公開していく。



2015年度(2015年4月-2016年3月)実施事項

- 海上運営チームのフレーム決定と具体案の検討
- 海上運営コアメンバー候補の検討
- 各海面のマーク・レイヤー・チーフ候補の検討
- 国内大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ
- 国内開催ISAF大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ(420ワールド等)
- JSAFレース・マネジメント・ 세미나
- 海外ISAF大会への運営メンバー候補/視察員派遣
- 実施事項の評価と計画修正

2016年度(2016年4月-2017年3月)実施事項

- 海上運営チーム第一次編成
- 国内大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ
- 国内開催ISAF大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ(対象レース未定)
- ISAF Race Management Clinic
- JSAFレース・マネジメント・ 세미나
- 海外ISAF大会への運営メンバー候補/視察員派遣
- 実施事項の評価と計画修正

2017年度(2017年4月-2018年3月)実施事項

- 国内大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ
- 国内開催ISAF大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ(対象レース未定)
- ISAF Race Management Clinic
- JSAFレース・マネジメント・ 세미나
- 海外ISAF大会への運営メンバー候補/視察員派遣
- 実施事項の評価と計画修正

2018年度(2018年4月-2019年3月)実施事項

- 海上運営チーム第二次編成
- 国内大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ
- 国内開催ISAF大会運営を通じた運営メンバー候補のスキル・アップ(オリンピック・テストイベント等)
- ISAF Race Management Seminar
- JSAFレース・マネジメント・ 세미나
- 海外ISAF大会への運営メンバー候補/視察員派遣
- 実施事項の評価と計画修正



公益財団法人
日本セーリング連盟

2019年度(2019年4月-2020年3月)実施事項

- 海上運営チーム最終編成
- 国内大会運営を通じた運営メンバーのスキル・アップ
- 国内開催ISAF大会運営を通じた運営メンバーの
スキル・アップ(プレ・オリンピック等)
- ISAF Race Management Clinic
(プレ・オリンピック等のテスト・イベント前に実施)
- JSAFレース・マネジメント・セミナー
- 海外ISAF大会への運営メンバー/視察員派遣
- 実施事項の評価と計画修正



公益財団法人
日本セーリング連盟



“2020年東京オリンピックに向けての
レース・マネジメント・チーム育成”
に積極的な参画をお願いいたします。